

農業は
『ひと』をつくり
『しごと』をつくり
『ちいき』をつくる

農業生産法人 株式会社サラダボウル

農業生産法人 アグリビジョン株式会社

農業生産法人 株式会社兵庫ネクストファーム

NPO法人 農業の学校

田中 進

① サラダボウルの取り組み

② 人材育成

- ・NPO法人 農業の学校
- ・オンラインアグリビジネススクール
- ・やまなしアグリビジネススクール
- ・東北復興農業トレーニングセンタープロジェクト

③ 新規事業

- ・農業生産法人 アグリビジョン株式会社
- ・農業生産法人 株式会社兵庫ネクストファーム

株式会社サラダボウルのご紹介

会社名	農業生産法人 株式会社サラダボウル
設立	2004年4月1日
資本金	30,000,000円
業種	農業生産法人
従業員	40名（社員・パート、研修生）
スローガン	「農業の新しいカタチを創る」 農業は幸せ・感動販売業
取引先	らでいっしゅぼーや…有機野菜などのこだわり野菜の全国宅配 パルシステム…有機野菜などのこだわり野菜の宅配 （株）オギノ…山梨県を中心に40店舗程度の展開する地元大手スーパー イトーヨーカドー…主に地元の甲府昭和店に出荷 地元各施設…ホテル・旅館・宿泊施設や飲食店
事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・農産物の生産・販売 ・農産物の加工 ・農作業の請負 ・農地の管理 ・農業生産のコンサルティング ・グリーンツーリズム ・農産物販売の企画・開発 ・フランチャイズ事業
圃場面積	施設（とまと・きゅうり等） 2ha（約20,000㎡） 露地野菜 14ha（約160,000㎡） 水稲 4ha（約40,000㎡）
栽培作物	とまと（中玉とまと、大玉とまと）、きゅうり、なす、きゃべつ、ブロッコリー、葉菜類（ほうれん草、みずな、こまつな、チンゲン菜等）、根菜類など年間約30品目

株式会社サラダボウルのご紹介

代表取締役：田中 進

生年月日：1972年2月3生まれ 42歳

出身地：山梨県中央市(旧・田富町)

経歴：山梨県田富町立田富小学校・田富中学校 卒業

駿台甲府高等学校 卒業

横浜国立大学経営学部国際経営学科 卒業

1994年 株式会社東海銀行 入行(現・三菱東京UFJ銀行)

銀行入行3年目。当時はバブル崩壊後の貸し渋り全盛時代。しかし、その中であって6名だけの役員直轄の特別融資チームに配属された。日々、「融資など必要ない」という超優良企業を相手に、資金ではなく、自分達の価値を買って頂く仕事に向き合う。上司から繰り返し問われる「その企業の特徴は？」の言葉。中途半端な「答え」では帰してくれない。つまり、それはその企業の「強み」であり、「成功の原理原則」は何かという問いかけだった。この繰り返しが、自分の経営の原点作り上げた。

1999年 プルデンシャル生命保険株式会社 入社

銀行時代に引き続き、保険だけにとどまらず企業の抱える問題を解決する経営者の右腕として、コンサルティング営業を展開。入社年度よりトップセールスを記録し、社内表彰、及び、世界の生命保険営業の成績上位6%で構成される「MDRT」会員となる。プルデンシャル生命保険2004年度最終成績7位(約5,000人中)。

2004年 農業生産法人・株式会社サラダボウル設立 代表取締役

2005年 NPO法人農業の学校設立 理事長

【農業生産法人・株式会社サラダボウル】

10年間の金融機関在籍中、様々な業種・業態に係る中で、金融をはじめ、他業界の視点で農業ビジネスを研究し、農業をビジネスチャンスとして実感。支援する企業経営者が自分の「想い」をカタチにし、事業化していくのを間近で見ながら、企業の支援をするだけの立場を抑え込むことができず、自らも起業を決意。2004年農業生産法人を設立し、農業参入を果たす。

「日本の農業の新しいカタチを創りたい」との想いを胸に、借地60aで事業開始。2014.4現在で約20haに拡大し、従業員30名となる。取引先と直接契約を結び、トマト1品目でスタートしたが、現在では年間約30品目に増加。現在も拡大中。設立当初より人材育成に情熱を注ぎ、人材の確保・育成ノウハウを構築。2005,11に農業を志す人間が農業で幸せに生きていける道標を作るべく、「NPO法人農業の学校」を設立し、理事長に就任。全国の生産者をネットワークし、新規就農者の支援を行っている。

次世代の農業の在り方をあらゆる方面に提案し、自らも実行している。

サラダボウル・プライド

経営理念

とにかく美味しい野菜をつくり
【笑顔にあふれた食卓の風景】や
【会話に満ちた家族の風景】
を創る

経営ビジョン

■ 農業の新しいカタチを創る

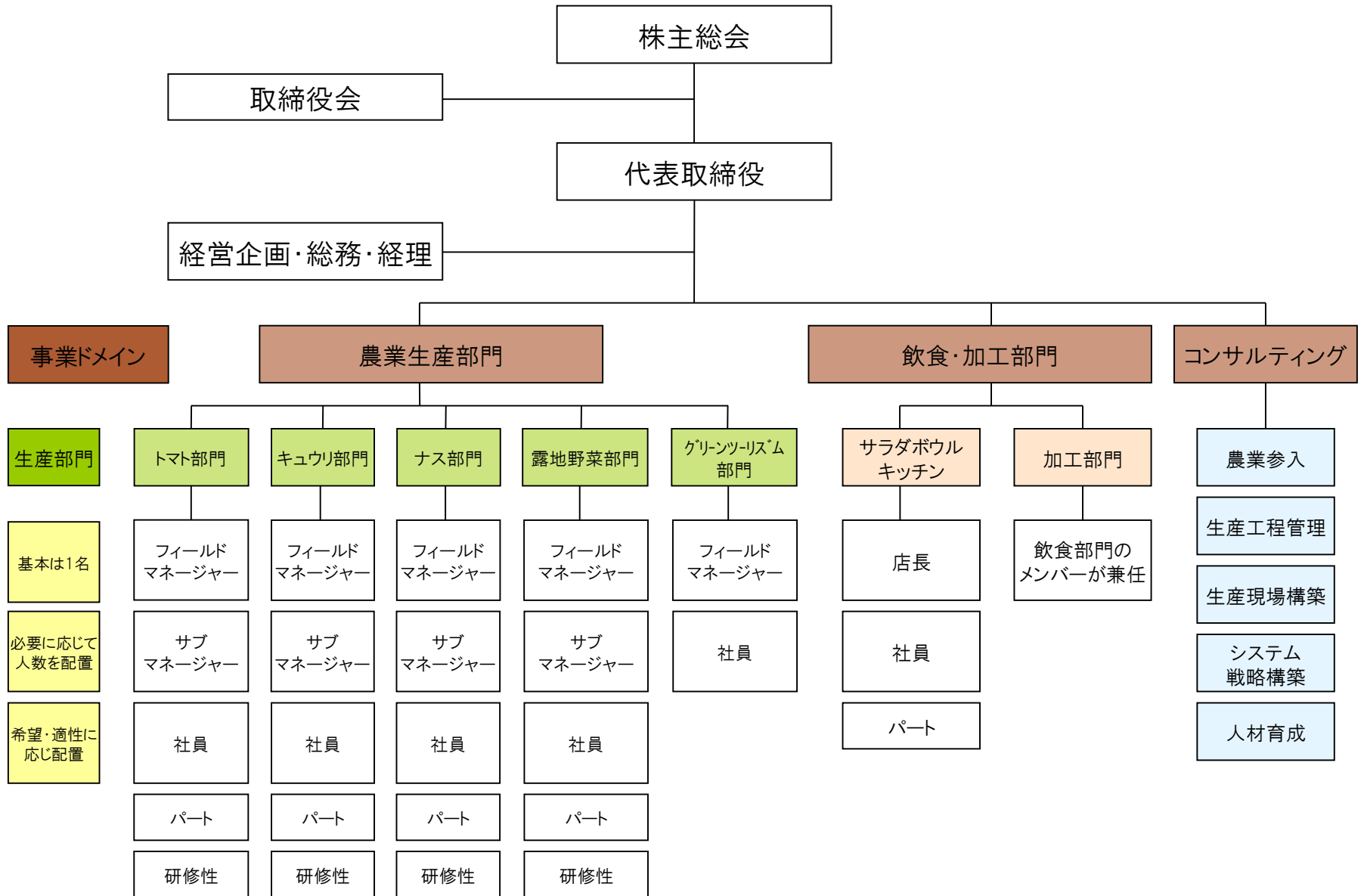
事業ミッション

- 農業で幸せに生きる
- お客様の感動のために全力を尽くす
- 最高に美味しい野菜づくりに励む
- 農業の無限の可能性に挑戦する
- 『ヒト軸経営』に徹する

行動方針

- 自律感動型人間を目指す
- 自らの手で時代を創る

組織図



アグリビジョン株式会社 株式会社兵庫ネクストファーム

企業との連携や先端技術の導入による 次世代型施設園芸の実現

1. グローバルGAPを超える『世界標準モデル』を創る
2. 日本独自の『流通モデル(フードバリューチェーン)』を創る
3. 海外展開戦略(FBI)に基づく『グローバルブランド』を創る

農業規範としての標準モデルを創る。生産から流通までの流通モデル(フードバリューチェーン)を構築し、アジアや世界を制することができるグローバルブランドを育てる『農業プロジェクト』に取り組む。

「生産マネジメントモデル」

「人材育成モデル」

「流通モデル(フードバリューチェーン)」

「グローバルブランド」 の確立を目指す。

アグリビジョン株式会社

株式会社兵庫ネクストファーム

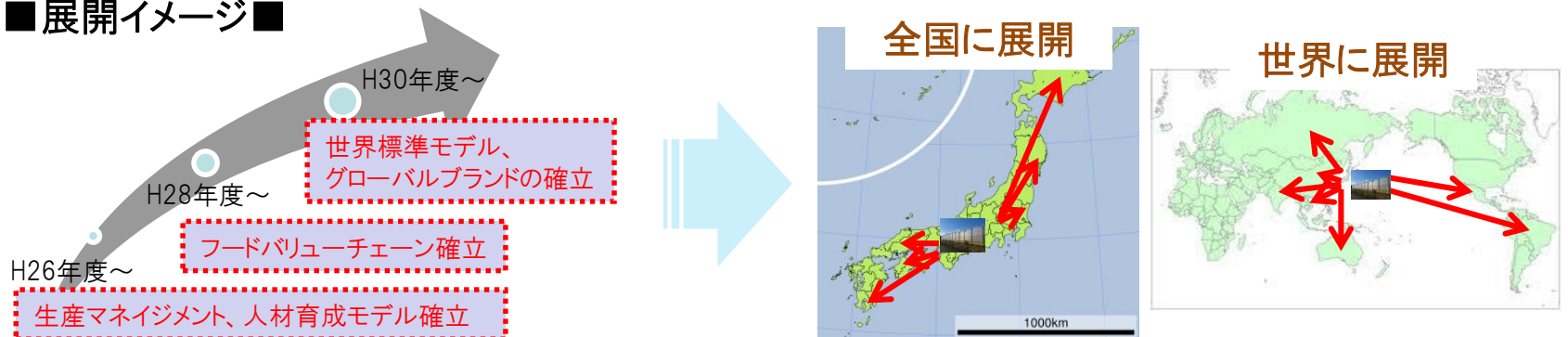
■目指すところ■

新たな農業規範としての標準モデルを創る。生産から流通までの流通モデル(フードバリューチェーン)を構築し、アジアや世界を目指すことができるグローバルブランドを育てる『農業プロジェクト』に取り組む。

■事業目的■

- ①統合環境制御による高品質・高収量・4定生産を実現する
⇒「生産マネジメントモデル」「人材育成モデル」の確立
- ②マーケットイン視点による新たなフードバリューチェーンを構築する
⇒「流通モデル(フードバリューチェーン)の確立
- ③農業経営マネジメントモデルを国内・海外へ横展開し生産連携を実現する
⇒ 世界標準モデルとグローバルブランドの確立
- ④地方における新たな地域雇用モデルを確立する
⇒ 新雇用モデル、新地域産業モデルの確立

■展開イメージ■



2014年(平成26年)3月15日 土曜日

北杜に最大級トマト工場

アグリビジョン 太陽熱利用し栽培



来年2月完成、新規雇用も

中央市の農業生産法人サラダボウル(田中進喜)と三井物産(飯島彰)社長、本社東京都千代田区でつくる農業生産法人アグリビジョンは、北杜市武川町山高の遊休農地に、大規模なトマト生産工場を建設する。来年2月の完成を予定している。工場は当初3畝で稼働し、2017年までに10畝に拡張する計画で、国内最大級となる。新たな雇用を生むとともに、年間を通して高品質のトマトの生産、販売を目指す。(坂本一真)

アグリビジョンは昨年3月、県庁が南アルプス市、月サラダボウルが51%、三井物産が49%を出資して設立。一整備事業が頓挫したため、日照時間が長くトマト栽培に適した北杜市に計画を移した。サラダボウルの生産、販売のノウハウと三井物産の物流網で相乗効果を狙う。

田中社長によると、工場は特殊なフィルムで覆った大型ハウスで、吸収した太陽光利用型植物工場の建設予定地
北杜市武川町山高

太陽熱などで光合成量を最大化させる最先端の統合環境制御システムを利用、年間を通して、気象、気候に左右されない栽培体制をつくる。3畝の工場で年間7,000トンのトマトを生産する予定。県果樹食品流通課によると、施設園芸の県内最大規模は北杜市内のレタス栽培施設の約2・3畝のため、アグリビジョンの工場が県内最大規模となるという。初出荷は15年6月で、三井物産の青果卸流通事業を通じ全国のスーパーなどで販売する。地元を優先して約70人の雇用を見込む。農林水産省園芸作物課によ

ると、施設園芸の国内最大規模は福島県内のトマト栽培施設の約10畝。17年にアグリビジョンの工場が10畝まで拡張された場合、山梨に同規模の農業施設が誕生する。田中社長は「新たな地域産業を生むことで、遊休農地の解消や雇用の創出にもつなげたい」と話している。

次世代施設園芸 兵庫拠点

ポイント

- 統合環境制御技術によりトマトの単収35t/10aを目指す。
- 大型チップボイラーによる低コストなエネルギー供給。



住所: 兵庫県加西市鶉野 (敷地面積 81,151㎡)

事業実施概要

拠点整備

1haのフェンロー型ガラス温室4棟を整備しトマトを生産。木質チップを燃料としたチップボイラーから熱源を供給し、化石燃料の使用量を83%削減。温室生産に係る光熱動力費を、環境制御技術、木質バイオマス利用等により、収量1kgあたり50.3円(県の指導指針)から5年後には42.2円へと16%削減を目指す。また、育苗が安定生産の重要なステージであることから、施設園芸の計画生産のため、完全人工型植物工場や2次育苗施設を備えた種苗生産施設を整備するとともに、集出荷貯蔵施設を一体的に整備し、効率的な施設運営を行う。

技術実証

トマト4haでPRIVA社のシステムを用いた統合環境制御技術、細霧冷房による温度・湿度管理技術、農業に頼らない安全安心な生産技術等を大規模実証。また、栽培技術力の向上のための検討会の開催や先進地調査を行う。既存の施設園芸農家の品質・収量アップと収入向上に繋がる生育・作業データ等の還元・助言を行うなど団地外への普及拠点に位置づける。

環境整備

民間企業や生産者をはじめ、県・市町や研究機関等が構成員となるコンソーシアムで、先端技術や実需者ニーズのほか、海外向けの販売や若手農業者の育成についても情報共有や課題抽出・解決に向け取り組んでいく。また、取組成果を広く周知していく。

コンソーシアム構成員

兵庫県次世代施設園芸推進協議会

民間企業 生産者	種苗関係業者 (株)兵庫ネクストファーム(仮称) (JA兵庫みらい、(株)サラダボウル、東馬場農園)
地方自治体 実需者	兵庫県、加西市、多可町 関西スーパー、JA兵庫みらい、 (株)サラダボウル
研究機関	神戸大学、県立農林水産技術総合センター
普及機関 その他	加西農業改良普及センター (公社)兵庫みどり公社

施設整備主体

園芸施設 エネルギー供給施設 種苗生産施設 集出荷施設	} 兵庫みどり公社
--------------------------------------	-----------

栽培品目・面積(ha)・栽培方法

トマト	4ha(長期長段栽培)
-----	-------------

収量(t)・販売先

- トマト
- ・ 収量 1,400t(35t/10a × 4ha)
- ・ 販売先 関西スーパー、JA兵庫みらい等
(契約出荷70%、市場流通30%)

東北復興・農業トレーニングセンタープロジェクト

～東北から始まるニッポンの未来のカタチ～

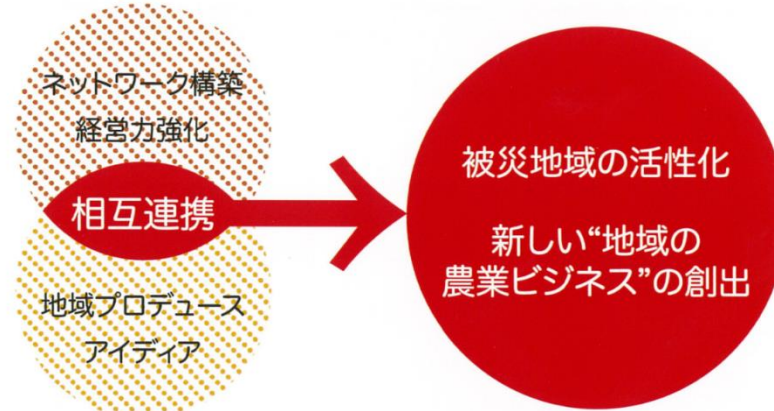


笑顔で結ぶ。人を、日本を。

「農業の担い手・リーダー育成」のための支援プロジェクト

このプロジェクトは、単に東北の農業の復興を目指すものではなく、新しい時代の新しい仕組みや地域の意義を、農業を中心に生み出すプロジェクトである。すなわち、東北での新しい仕組みを作り出そうと考えている農業経営者向けの繋がりの場と、東京での様々なバックグラウンドをもつ人材の地域プロデュース力を更に育成して繋げる場、その両方を開設して常に連携を行いながら1年を掛けて具体的なアウトプットを作り出すことを目指すプロジェクトである。海外の先進事例等も取り込み、農業に関する最新の情報や人が集まる環境を東北につくり、東北からはじまるニッポンの未来のカタチを一緒に創っていく、すなわち、農業と他の分野を繋ぎ、新たな価値を生み出し、新たな社会の枠組みに向けて実行するものである。

農業経営者 リーダーズ
ネットワーク in 東北



新しい仕組みを創りだそうと考える農業経営者たちの繋がり場と、様々なバックグラウンドを持つ人材の地域プロデュース力をより一層高める場を開設し、連携しながらアウトプットを目指す。

九の内 朝大学
農業復興 プロデューサー
カリキュラム in 東京

【目指すべき姿】

「1,000人の農業者のボトムアップではなく、1人の真の農業経営者を創る」

※「真の農業経営者」…自分の意思で経営ができる農業経営者、地域を農業を核としてプロデュースできる農業経営者

【方針】

ボトムアップモデルではなく、プルアップモデルによって真の農業経営者を目指せる『場』と『仕組み』を創り、他産業との連携を図ることができる農業経営者のリーダーズネットワークを構築するプロジェクトである。

強い想いだけでは次世代の農業の新しいカタチを創りだすことは困難である。最大の課題である収益性の低さを解決するためには、適切な戦略を打ち出し、実践することが求められている。農業は、「ものづくり」であり、どれほどの確度で有効な戦略が立てられようと、強い生産現場が構築されなければ、それは浮ついたものにしかない。もう一度、農業という産業を「根っこ」から創り上げ、同時に、しっかりとした生産現場を土台に、他産業と連携して新しいマーケットを生み出していく。

【従前の農業教育】

